

中小企業論 A		講義	准教授 八木 孝幸	
科目カテゴリー	スポーツマネジメントコースの専門選択科目	科目ナンバリング	11320207	

1. 授業のねらい・概要

統計によれば、日本の全企業数に占める中小企業の割合は99.7%、全企業の雇用者数に占める中小企業雇用者の割合は70.1%と、中小企業の問題は日本人にとっても身近な問題である。この『中小企業論』は、そんな日本人にとっても身近な問題である中小企業の問題を理解していこうとする講義である。

講義内容の詳細については「授業計画」の項にゆずるが、前期は主に「中小企業とは何か」について講義を行う予定である。なお、本講義の履修に関して特に制限はないが、『経営学基礎』の単位が修得済みであることが望ましい。

2. 授業の進め方

テキストは用いず、毎回板書をしながら講義を実施する予定である。

3. 授業計画

1. 中小企業の特徴 2. 中小企業を区分する基準 3. 日本における中小企業の区分基準 4. 中小企業基本法による中小企業の定義 5. 近年の中小企業政策の動向 6. 日本経済における中小企業の地位 7. 大企業の補完的役割を果たす中小企業 8. 地域経済の活性化に貢献する中小企業	9. イノベーションの担い手としての中小企業 10. 中小企業の経営特性①（非組織的な意思決定） 11. 中小企業の経営特性②（低い市場占有率） 12. 中小企業の経営特性③（制約の多い経営資源） 13. 子会社と関連会社、系列会社とその事例 14. 中小企業の下請をめぐる動向 15. 下請における中小企業の経営課題
---	---

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

授業計画を参考に、次回講義までに参考文献などを読んで2時間以上の予習をしておくことが望ましい。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験実施（あるいはレポート提出）の後、解答例等を掲示板に掲示する。

6. 授業における学修の到達目標

日本人にとって身近な問題である中小企業の問題について理解を深めた上で、議論が行えるようになることを目標としている。

7. 成績評価の方法・基準

課題（定期試験やレポート等）の結果（50%）及び授業への取り組み姿勢（50%）によって評価する。ただし、課題（定期試験やレポート等）の結果が授業への取り組み姿勢の評価のいずれかが59点以下になった場合は、不可とする。

8. テキスト・参考文献

〈テキスト〉

テキストは用いず、必要に応じて適宜資料を配布する。

〈参考文献〉

- (1) 井上善海・木村弘・瀬戸正則編『中小企業経営入門』中央経済社、2014年。
- (2) 関満博『日本の中小企業——少子高齢化時代の起業・経営・承継』中央公論新社、2017年。
- (3) 高田亮爾・上野紘・村社隆・前田啓一編『現代中小企業論』同友館、2009年。

9. 受講上の留意事項

座席表作成の都合上、履修学生は初回より必ず出席のこと。

10. 「実務経験のある教員等による授業科目」の該当の有無

該当しない。

11. 卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目との関連

上記の「科目カテゴリー」欄の記載のとおり。